

分科会②-A

発表順	②-A-2	
氏名	所属	タイトル
臼井昭子	山形大学学術研究院	美術科映像メディア表現の活性化にむけた探索的な検討 -地域作家による授業実践を通して-
<p>概要: 高等学校芸術(美術)科では、学習指導要領解説芸術編において、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用が示されている。しなしながら、映像メディア表現の教材開発が進まず授業が十分に実施されていない傾向がみられることが課題となっている。そこで、本研究では、映像メディア表現の授業を活性化させるために地域資源の活用に着目した。探索的な検討として、地域で映像メディアを用いて表現活動をしている映像作家に実際に授業をしてもらい、生徒への質問紙調査の結果等から、その効果について検証と考察を行った。その結果、授業直後だけでなく授業の3か月後でも生徒らの地域の作家や作品に対する興味・関心の高まりが継続されており地域の映像作家による映像メディア表現の授業に一定の効果が確認された。</p>		

発表順	②-A-2	
氏名	所属	タイトル
米満 潔	佐賀大学	オンライン授業の好事例調査
<p>概要: 2020年度は、新型コロナ感染拡大予防のために、多くの大学において、オンライン授業が実施された。実施されたオンライン授業の形式は、オンデマンド形式とリアルタイム形式に大別される。佐賀大学では、これまで実践してきたMoodleによる「ネット授業」などのオンデマンド形式の授業に加え、Microsoft 365やWebexなどのサービスを利用することでリアルタイム型のオンライン授業にも対応した。大きな問題もなく授業を実施できたが、ほぼ1年間オンラインでの授業であった学生からの評価については懸念される。また、はじめてオンライン授業を行う教員側にとっても、自身の手法の改善の参考になる情報が求められている。そこで、学生の授業評価アンケートから、評価の高い授業の教員を抽出し、数名の教員に授業実践を好事例として報告してもらいFD講習会を開催した。本稿では、好事例の抽出とFD講習会の実施について報告する。</p>		

発表順	②-A-3	
氏名	所属	タイトル
高橋文徳	尚絅大学短期大学部	コロナ禍での休講措置と学習への影響
<p>概要: 筆者が所属する大学の2学科において、共通の授業を行った。一方は、当初の予定通りに隔週で15回の授業を実施した。他方は予定していた隔週15回の内、3回をコロナウィルス感染拡大防止の観点から止むを得ず休講とした。その分の補講を、学期末に連続して実施した。授業はPCでの演習を含んだ情報系科目であり、毎回の授業時に選択式の知識試験、及び実際にPCで課題を作成する実技試験を行った。加えて、1回目と15回目の授業時には、自己認識についての質問紙調査を実施した。これらの結果を比較し、休講措置の学習への影響を検証した。</p>		

分科会②-B

発表順	②-B-1	
氏名	所属	タイトル
吉野 陽	鹿児島大学大学院理工学研究科	Bluetoothを用いた食堂における利用人数の検知
<p>概要: 本学の昼休みの時間帯においては、利用人数が他の時間帯に比べて大幅に増加する。先行研究では、AIを用いて食堂内における混雑状況および提供するまでの待ち時間を推定した。推定した情報は利用者と職員に対して情報提供を行っている。情報提供として、混雑状況の予測を当日の混雑状況とともに提供しているが、精度のよい混雑状況の予測を行うためには、当日の利用人数も考慮する必要がある。本研究では、利用人数を把握するためにBluetoothを用いることで利用者の検知を行う。利用者の検知を行うことで、リアルタイムで食堂に来店した人数を把握することが可能になる。Bluetoothによる検知は受信強度によって、取得する範囲を任意に決めることができる。取得した利用者の検知数は実際にレジを通過した人数と比較し、Bluetoothによる利用者の検知の効果を検証する。</p>		

発表順	②-B-2	
氏名	所属	タイトル
池本健太郎	鹿児島大学大学院理工学研究科	鹿児島大学生協同組合教育店における購入率の可視化
<p>概要: 鹿児島大学生協同組合は弁当や飲料を販売するコンビニ型の店舗を運営している。昼休みの時間になると店舗を利用する人数が増加するが、実際に入店する利用者の人数と商品を購入する利用者の人数は大きく異なっている。商品を購入する利用者の人数が増加することで店舗の売り上げは向上する。本研究は、教育店に注目し、そのレジを使用した人数および店舗に入店した人数をそれぞれ可視化し、商品を購入する利用者の割合を明確にすることを目的とする。</p>		

発表順	②-B-3	
氏名	所属	タイトル
上川畑花恵 高田 智裕 岡村 正太 甲斐 弥奈	鹿児島大学生協同組合	AI/IoT運用による利用状況の見える化について
<p>概要: AI/IoT運用による可視化された利用状況を発信する取り組みを鹿児島大学生協の中央食堂、ミニショップ2店舗で9月から実施している。組合員が入店前に混雑状況を知ることが出来るようになったことで起きた利用者側・店舗側の変化について発表する。</p>		